

略生 専攻学科目 年 月 歴

同同平同同同同同同昭和 成 六六五五四四四 七四四一〇七一八八四 年年年年年年年年年 昭和二〇年 脳神経医学 五七年 四四五五一三月月月月月月 三月 三月

〇月 七月

同同同同 一 九 五 年 九年 · 二〇月

二年

四月

慶応義塾大学大学院医学研究科博士課程修了 慶応義塾大学医学部医学科卒業

仏国パスツール研究所研究員 医学博士

岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所教授(併任、 大阪大学蛋白質研究所教授(平成四年四月まで) 慶応義塾大学医学部助教授

理化学研究所主任研究員(併任、平成九年九月まで) 東京大学医科学研究所教授(平成一九年三月まで)

平成三年九月まで)

新技術事業団 (現独立行政法人科学技術振興機構) ERATO, ICORP-SORST プロジェクト・

理化学研究所脳科学総合研究センター発生・分化研究グループディレクター(平成二一年三月まで) 代表研究者(現在に至る)

スウェーデンカロリンスカ研究所客員外国人教授

東京大学名誉教授

理化学研究所脳科学総合研究センター発生神経生物研究チームリーダー

(現在に至る)

_ O

ウム制御機構の研究」に対する授賞審査医学博士御子柴克彦氏の「細胞内カルシ

要旨

生命現象において重要な役割を演ずるカルシウムを細胞内に貯蔵と必要に応じて放出する制御の仕組みがあり、その主役を演ずるのと必要に応じて放出する制御の仕組みがあり、その主役を演ずるのと必要に応じて放出する制御の仕組みがあり、その主役を演ずるのと必要に応じて放出する制御の仕組みがあり、その主役を演ずるのと呼ばれるタウスにおいて欠落することが見いだされていた P400 と呼ばれるタウスにおいて欠落することが見いだされていた P400 と呼ばれるタウスにおいて欠落することを前側の仕組みがあり、その主役を演ずるカルシウムチャネルと一体であることを証明した。

た。

セプターがカルシウムにより機能を変化させ、風車型、四角型とダーその後、この IP₃ レセプターの構造生物学的解析を進めて IP₃ レ

くの情報伝達系とリンクし、かつ病気とも深く関わることを示しくの情報伝達系とリンクし、かつ病気とも深く関わることを示した。IP3 レセプターのチャネルポアーの開閉機構の解明を行った。さらにIP3 レセプターのチャネルポアーの開閉機構の解明を行った。さらに、IP3 レセプターに結合するタンパク質をスクリーニングした結果、グルタミン酸レセプターをはじめとしてハンチントン病や細胞に IP3 レセプターに結合するタンパク質をスクリーニングした結果、グルタミン酸レセプターをはじめとしてハンチントン病や細胞に IP3 レセプターのチャネルポアーの開閉機構の解明を行った。さらに IP3 レセプターに結合するタンパク質をスクリーニングした結果、グルタミン酸レセプターをはじめとしてハンチントン病や細胞に IP3 レセプターのチャネルポアーの開閉機構の解明を行った。さらに IP3 レセプターのチャネルポアーの開閉機構の解明を行った。さらこれらは IP3 レセプターのチャネルポアーの開閉に関わる近傍に結合していることを明らかにした。すなわち IP3 レセプターが他の多合していることを明らかにした。すなわち IP3 レセプターが他の多合していることを明らかにした。すなわち IP3 レセプターが他の多合していることを明らかにした。すなわち IP3 レセプターが他の多の情報伝達系とリンクし、かつ病気とも深く関わることを示しくの情報伝達系とリンクし、かつ病気とも深く関わることを示した。

経の突起伸展に重要であること、遺伝子欠損マウスは発育障害や小レーザー光を利用して IP₃ レセプターを破壊する手法を用いて、神細胞期に胚の背側と腹側を決定すること、抗体に蛍光色素をつけてのカルシウム振動に不可欠であり、またカルシウム振動が受精後四また生物学的役割について解析を進め、IP₃ レセプターが受精後

が五〇%以上陽性であることも明らかにした。 と、ヒトシェーグレン症候群患者の血清中に IP₃ レセプターの抗体と、ヒトシェーグレン症候群のるシェーグレン症候群のモデルとなることを起こす自己免疫疾患であるシェーグレン症候群のモデルとなることを起こす自己免疫疾患であるシェーグレン症候群のモデルとなることを関うが機能に IP₃ レセプタータイプ二型、三型が重要であることを脳失調を呈し、神経可塑性に異常を示すことを明らかにした。更に

更にタイプ一型 IP₃ レセプターを介するカ でなる、アービットを放出するという新しい情報伝達経路を発見した。また近年、小胞体内腔に新しい電子の授受に関わることが明らかにないなる、アービットを放出される新規分子を発見し、アービットには合しており IP₃により放出される新規分子を発見し、アービットに(IRBIT)と命名した。アービットは IP₃ の偽似体であり、IP₃ と同じがあいれば離路を見出した。即ち IP₃ の偽似体であり、IP₃ と同じを標的として生体の酸・塩基バランスの調節にかかわるという全くを標的として生体の酸・塩基バランスの調節にかかわるという全くを標的として生体の酸・塩基バランスの調節にかかわるという全くを標的として生体の酸・塩基バランスの調節にかかわるという全くを標的として生体の酸・塩基バランスの調節にかかわるという全くを標的として生体の酸・塩基バランスの調節にかかわるという全くを標的として生体の酸・塩基バランスの調節にかかわるという全くを標的として生体の酸・塩とでいる。 また近年、小胞体内腔に新しい電子の接受に関わる酸化・還のでなく、アービットを放出するという新しい情報伝達経路を発見した。 また近年、小胞体内腔に新しい電子の接受に関わる酸化・還のでなく、アービットを放出するという新しい情報伝達経路を発見した。 また近年、小胞体内腔に新しい電子の接受に関わる酸化・還のでなく、アービットを放出するというが、IP₃ と同じないでは、IP₃ の役割はカルシウムの放出のでは、IP₃ の役割はカルシウムの放出のでは、IP₃ の役割はカルシウムの放出のでは、IP₃ の役割はカルシウムの放出のでは、IP₃ によりにないでは、IP₃ によりにないでは、IP₃ によりにないでは、IP₃ によりにないでは、IP₃ によりにないでは、IP₃ によりにないでは、IP₃ によりにないでは、IP₃ によりないにないでは、IP₃ によりないにないでは、IP₃ によりないにないでは、IP₃ によりないでは、IP₃ によりないでは、IP

疾病と強く関わることを示したものである。ルシウム制御が生体の機能調節に様々な形で関与して、その障害は

程で、多数の人材を育成したことも特筆に値する。 程で、多数の人材を育成したことも特筆に値する。 程で、多数の人材を育成したことも特筆に値する。 と同体であること、小胞体に局在すること等、その実体を解明するとに世界に先駆けて成功したのを契機として、その後 IP3 レセプターの三次元微細構造とその多彩な生物学的な機能の解明を多くのとに世界に先駆けて成功したのを契機として、その後 IP3 レセプら、「細胞内カルシウム制御機構の研究」を発展させてきた。この過ら、「細胞内カルシウム制御機構の研究」を発展させてきた。この過ら、「細胞内カルシウム制御機構の研究」を発展させてきた。この過ら、「細胞内カルシウム制御機構の研究」を発展させてきた。この過ら、「細胞内カルシウム制御機構の研究」を発展させてきた。この過れている。

主要な著書・論文

- Mikoshiba, K., Huchet, M., Changeux, J.P. (1979) Biochemical and immunological studies on the P₄₀₀ protein, a protein characteristic of the Purkinje cell from mouse and rat cerebellum. **Dev. Neurosci** 2(6): 254–275.
- Furuichi, T., Yoshikawa, S., Miyawaki, A., Wada, K., Maeda, N., Mikoshiba K. (1989) Primary structure and functional expression of the inositol 1,4,5-trisphosphate-binding protein P₄₀₀. Nature 342(6245): 32–38.
- Miyawaki, A., Furuichi, T., Maeda, N., Mikoshiba, K. (1990) Expressed cerebellar-type inositol 1,4,5-trisphosphate receptor, P₄₀₀, has calcium release activity in a fibroblast L cell line. Neuron 5(1): 11-18.
- Maeda, N., Kawasaki, T., Nakade, S., Yokota, N., Taguchi, T., Kasai, M.,

4

- Mikoshiba, K. (1991) Structural and functional characterization of inositol 1,4,5-trisphosphate receptor channel from mouse cerebellum. **J. Biol. Chem.** 266(2): 1109–1116.
- Miyazaki, S., Yuzaki, M., Nakada, K., Shirakawa, H., Nakanishi, S., Nakade, S., Mikoshiba, K. (1992) Block of Ca²⁺ wave and Ca²⁺ oscillation by antibody to the inositol 1,4,5-trisphosphate receptor in fertilized hamster eggs. Science 257(5067): 251–255.
- 6) Kume, S., Muto, A., Aruga, J., Nakagawa, T., Michikawa, T., Furuichi, T., Nakade, S., Okano, H., Mikoshiba, K. (1993) The *Xenopus IP*₃ receptor: structure, function, and localization in oocytes and eggs. Cell 73: 555–570.
- Kume, S., Muto, A., Inoue, T., Suga, K., Okano, H., Mikoshiba, K. (1997)
 Role of inositol 1,4,5-trisphosphate receptor in ventral signaling in *Xenopus* embryos. Science 278(5345): 1940–1943.
- 8) Inoue, T., Kato, K., Kohda, K., Mikoshiba, K. (1998) Type linositol 1,4,5 trisphosphate receptor is required for induction of long-term depression in cerebellar Purkinje neurons. **J. Neurosci**. 18(14): 5366–5373.
- 9) Takei, K., Shin, R.M., Inoue, T., Kato, K., Mikoshiba, K. (1998) Regulation of nerve growth mediated by inositol 1,4,5-trisphosphate receptors in growth cones. **Science** 282(5394): 1705–1708.
- 10) Michikawa, T., Hirota, J., Kawano, S., Hiraoka, M., Yamada, M., Furuichi, T., Mikoshiba, K. (1999) Calmodulin mediates calcium-dependent inactivation of the cerebellar type 1 inositol 1,4,5-trisphosphate receptor. Neuron 23: 799–808
- 11) Yoshikawa, F., Iwasaki, H., Michikawa, T., Furuichi, T., Mikoshiba, K. (1999) Trypsinized cerebellar inositol 1,4,5-trisphosphate receptor. Structural and functional coupling of cleaved ligand binding and channel domains. J. Biol. Chem. 274(1): 316–327.
- 12) Fujii, S., Matsumoto, M., Igarashi, K., Kato, H., Mikoshiba, K. (2000)

- Synaptic plasticity in hippocampal CA1 neurons of mice lacking type1inositol-1,4,5-trisphosphate receptors. **Learn & Memory** 7(5): 312–320.
- Nishiyama, M., Hong, K., Mikoshiba, K., Poo, M.M., Kato, K. (2000) Calcium stores regulate the polarity and input specificity of synaptic modification. Nature 408(6812): 584–588.
- 14) Ma, H.T., Patterson, R.L., van Rossum, D.B., Birnbaumer, L., Mikoshiba, K., Gill, D.L. (2000) Requirement of the inositol trisphosphate receptor for activation of store-operated Ca²⁺ channels. Science 287: 1647–1651.
- 15) Fukami, K., Nakao, K., Inoue, T., Kataoka, Y., Kurokawa, M., Fissore, R.A., Nakamura, K., Katsuki, M., Mikoshiba, K., Yoshida, N., Takenawa, T. (2001) Requirement of phospholipase Cδ4 for the zona pellucida-induced acrosome reaction. Science 292(5518): 920–923.
- 16) Bosanac, I., Alattia, J.R., Mal, T.K., Chan, J., Talarico, S., Tong, F.K., Tong, K.I., Yoshikawa, F., Furuichi, T., Iwai, M., Michikawa, T., Mikoshiba, K., Ikura, M. (2002) Structure of the inositol 1,4,5-trisphosphate receptor binding core in complex with its ligand. Nature 420(6916): 696–700.
- Saneyoshi, T., Kume, S., Amasaki, Y., Mikoshiba, K. (2002) The Wnt/calcium pathway activates NF-AT and promotes ventral cell fate in *Xenopus* embryos. Nature 417(6886): 295–299.
- 18) Nagai, T., Ibata, K., Park, E.S., Kubota, M., Mikoshiba, K., Miyawaki, A. (2002) A variant of yellow fluorescent protein with fast and efficient maturation for cell-biological applications. Nature Biotechnol. 20: 87–90.
- Hamada, K., Terauchi, A., Mikoshiba, K. (2003) Three-dimensional rearrangements within inositol 1,4,5-trisphosphate receptor by calcium. J. Biol. Chem. 278(52): 52881–52889.
- Bannai, H., Inoue, T., Nakayama, T., Hattori, M., Mikoshiba, K. (2004)
 Kinesin dependent, rapid, bi-directional transport of ER sub-compartment in dendrites of hippocampal neurons. J. Cell Sci. 117(Pt2): 163–175.

- Sato, C., Hamada, K., Ogura, T., Miyazawa, A., Iwasaki, K., Hiroaki, Y., Tani, K., Terauchi, A., Fujiyoshi, Y., Mikoshiba, K. (2004) Inositol 1,4,5-trisphosphate receptor contains multiple cavities and L-shaped ligand-binding domains. J. Mol. Biol. 336(1): 155–164.
- 22) Bosanac, I., Yamazaki, H., Matsu-ura, T., Michikawa, T., Mikoshiba, K., Ikura, M. (2005) Crystal structure of the ligand binding suppressor domain of type1 inositol 1,4,5-trisphosphate receptor. Mol. Cell 17(2): 193–203.
- Futatsugi, A., Nakamura, T., Yamada, M.K., Ebisui, E., Nakamura, K., Uchida, K., Kitaguchi, T., Takahashi-Iwanaga, H., Noda, T., Aruga, J., Mikoshiba, K. (2005) IP, receptor types 2 and 3 mediate exocrine secretion underlying energy metabolism. Science 309(5744): 2232–2234.
- 24) Higo, T., Hattori, M., Nakamura, T., Natsume, T., Michikawa, T., Mikoshiba, K. (2005) Subtype-specific and ER lumenal environment-dependent regulation of inositol 1,4,5-trisphosphate receptor type1by ERp44. Cell 120(1): 85–98.
- 25) Ando, H., Mizutani, A., Kiefer, H., Tsuzurugi, D., Michikawa, T., Mikoshiba, K. (2006) IRBIT suppresses IP₃ receptor activity by competing with IP₃ for the common binding site on the IP₃ receptor. Mol. Cell 22(6): 795–806.
- 26) Shirakabe, K., Priori, G., Yamada, H., Ando, H., Horita, S., Fujita, T., Fujimoto, I., Mizutani, A., Seki, G., Mikoshiba, K. (2006) IRBIT, an inositol 1,4,5-trisphosphate receptor-binding protein, specifically binds to and activates pancreas-type Na⁺/HCO₃⁻ cotransporter1 (pNBC1). Proc. Natl. Acad. Sci. USA 103(25): 9542–9547.